

愛知県農業総合試験場 2025 年の 10 大成果

農業総合試験場

愛知県農業総合試験場では、農業の発展や農家経営の改善のため、新しい品種や高度な栽培技術・飼養技術の開発を行っています。こうした試験研究について、広く県民の皆様にご理解を深めていただくため、農業総合試験場の研究成果の中から、特に優れたものや社会的関心の高いものを各界の選定委員に選んでいただき、2025 年の 10 大成果として公表しましたので紹介します。

1 2025 年の 10 大成果

第 1 位	丸ごと甘い！イチジク新品種「愛知イチジク 1 号」を開発！ －黄緑色で皮ごと食べられる新品種を開発－
第 2 位	極上品質！受精卵から復活した奇跡の紅い豚！ －デュロック種系統豚「アイリス D 2 (ディーツー)」を開発－
第 3 位	トマトの茎を 2 回潰して収益 UP！ －高温環境下でのトマト裂果対策技術の開発－
第 4 位	恋する牛を鳴き声でキャッチ！ －牛の発情個体検知 AI システムの開発－
第 5 位	イチゴ「愛きらり®」の品種特性を生かした新作型をご提案します！ －局所温度制御により収穫開始時期の前倒しを実現－
第 6 位	露地小ギク、3 色揃って 8 月旧盆にきっちり咲かせます！ －8 月旧盆に出荷できる露地小ギク品種の選定及び電照栽培技術を確立－
第 7 位	イネの防除はこれでイイネ！ －イネカメムシの効果的な防除体系を確立－
第 8 位	有袋「瑞月(ブランド名：あいみずき)」の収穫時期を簡単に見極め！ －有袋「瑞月」用カラーチャートを作成－
第 9 位	小麦作の窒素化学肥料を 25%削減！ －鶏ふんを利用した減化学肥料栽培技術の開発－
第 10 位	環境 DNA でため池に生息する魚種がわかる！ －農業用ため池における環境 DNA 分析によるモニタリング法の開発－

2 選定委員

あさかわ すずむ
浅川 晋

名古屋大学大学院生命農学研究科 教授

いのうえ たかし
井上 孝司

ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社

研究開発本部基盤研究所 主席研究員

さかぐち ちなつ
坂口 千夏

中日新聞社 編集局生活部 部長

よしだ のりこ
吉田 典子

愛知消費者協会 会長

(以上、敬称略・五十音順)

ばん みつあき
伴 充晃

愛知県農業総合試験場 場長

3 特徴・傾向

研究成果の中から選定委員が、「実用性」、「新規性」、「社会性」、「普及性」の4項目について5段階で評価して10課題を選定しました。2025年の10大成果として選出された課題は、育種2・栽培管理4・IT関連1・病虫害防除1・環境対応2と多岐にわたっており、いずれの成果も今日的な問題解決に資するものです。今回は上位3課題を紹介します。

第1位：イチジクの新品種「愛知イチジク1号」を開発しました。本県のイチジク栽培は「柘井ドーフィン」を主体とした品種構成ですが、イチジクの消費と生産の拡大のため、これまでにない形質を持つ品種育成に取り組みました。新品種は、果皮色が黄緑色で、甘味が強く、皮ごと食べることができるという消費トレンドに合致した形質を持っています。

第2位：デュロック種新系統「アイリスD2」を開発しました。新系統は、ロース肉が大きく、発育性に優れ、背脂肪が適度な厚さであり、枝肉格付け（極上～並）の向上や養豚農家の経営安定が期待できます。育種中の豚熱発生で全ての豚を失いましたが、受精卵から再生して完成につなげました。

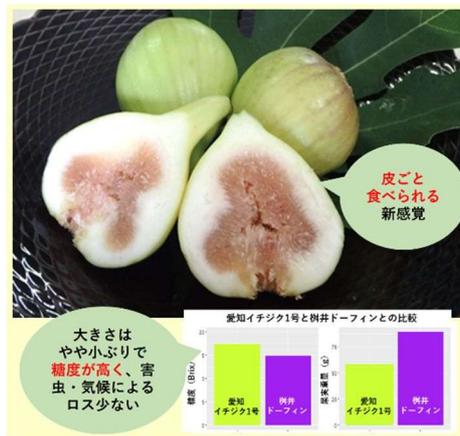
第3位：高温環境下でのトマト裂果対策技術を開発しました。トマトは、9～10月は産地の切り替わりで品薄となり、単価が上昇します。しかし、この時期はまだ暑く、実が割れてしまう「裂果」が多発し、収益悪化の一因となっています。本技術は、実のついている茎を2回ペンチで潰すことにより裂果発生率を1/7に減少させ、収益を47万円/10a向上させることができました。

4 公表

農業総合試験場の Web ページ (<https://www.pref.aichi.jp/nososi/10daiseika-site.html>) で、10大成果の詳細がご覧いただけます。

第1位

丸ごと甘い！イチジク新品種
「愛知イチジク1号」を開発！
—黄緑色で皮ごと食べられる新品種を開発—



第3位

トマトの茎を
2回潰して収益UP！
—高温環境下でのトマト
裂果対策技術の開発—



第2位

極上品質！受精卵から
復活した奇跡の紅い豚！
—デュロック種系統豚
「アイリスD2 (ディーツー)」
を開発—

